

印影石山房

—中国仏教協會寄贈—

藤堂恭俊

ここに掲載した影印は、一九八三年七月下旬中国仏教協會から本学に派遣された留学僧に托して寄贈された房山石経——「造立形像福報経」（掲載）と「作仏形像経」の拓本の影印である。（縦一五六cm・横六〇cm・厚九五cm）

「造立形像福報経」の頭部には、飛天を左右に配し、その中央に「奉為相公造立形像福報経及作仏形像経條」と刻されている。これ

によって「福報経」が表面に「作仏経」が裏面に刻されていることが知られる。両経（共に失訳）が一枚の石の表裏に刻されているから、その厚さの部分に模様を刻している。

「福報経」の経題（第一行目）の下に、「幽州盧竜節度使檢校司空同中門下平章事張允伸」、末尾（第二十八行目）に「咸通二年四八日楊君亮鑄」と刻され、また「作仏経」（頭部には中央に三尊を配し、左右に飛天を刻す）

の末尾（第二十六行目）に「楊君建刻字」と刻している。

この房山石経本と大正藏経本と比較するに文字に多少の相異が認められるが、内容には相異なる。但し石経本「作仏経」には「作仏形像所生処無有惡身体皆完好死後得生第七梵天上復勝余天端政絶好無比為諸天所敬作仏形像得福如是」の四十七字を増刻している。

（とうどう きょうしゅん 文学部教授）

